

に申し訳なく思った。

- ・アンケートに記入しながら気づくこともあった。普段の会話は一方的に注意することがほとんどで、会話になっていなかった。
- ・何かをしながら子どもの話を聞くことが多く、‘聴く’ことに気持ちを使っていなかった。向かい合って聴いていなかった。

* さいごに参加者のひとりが、定年後の現在の夢について参加者全員の前で話した。参加者全員が耳を傾け、和気藹々とした雰囲気が生まれた。

ワークショップを終えて～参加者感想～

- * 聞く姿勢を相手にわかってもらうこと、自分の話を聞いてほしいと思うことは相手だって聞いてほしいはず。しっかり向かい合って話していくことの大切さを改めて感じました。参加させてもらえてよかったです。
- * 年代の差があることで、20 数年前に考え方を戻すのに苦労しました。女性との対話は経験が少なく十分な話ができなかったかな？ 次回参加したいと思います。自分勝手な話ばかりしました。反省しています。
- * 話をする、聞くということが得意ではないので、つい面倒くさくなり避けてしまいがちですが、人がつながっていく上でコミュニケーションは大事で欠かせないものなので、自分の話し方、聞き方から見直したいと思います。
- * 楽しく参加できました。知らない人も多くいらっしゃいましたが、ワークショップ終了時に大変和やかな感じになり、コミュニケーションの大切さが感じ取れました。この気持ちを持って、家族、地域、その他の活動に生かしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- * 日常生活の中で、ついつい聞き流しがちであることが結構多いと改めて実感しました。これを機に少しでも周りの人の話に耳を傾けてしっかり聞き上手になれたらと思います。
- * 楽しい時間であったと同時に、日常を振り返って反省させられたひとときでした。子どもたちと会話していたつもりが、もしかしたら私の聞きたいことを質問して満足していた場面も多々あったかも…と思いあたることもあります。最近子どもからも「〇〇だからね」等年を押し返されて、「えーっ！ そうなの?!」「この間も言ったじゃない！ 人の話聞いてないんだね！」などという会話があったりして、聞いていたつもりがちゃんと自分の中に入っていないということもあったりしました。もう一度、日常生活を見つめ直し、子どもたちとしっかり向き合ってコミュニケーションをとっていきたいと思います。ありがとうございました。
- * お互いに向き合って、目を見て会話することの大切さを改めて感じました。家庭では、何かをしながら子どもとも夫とも話しているような気がします。向き合って話すのは、少々照れくさいのですが、心がけていきたいと思います。

- * 初めて参加しましたが、もっと堅苦しい感じを想像していたので、楽しかったです。きょうのことを参考にして、子どもと向き合ってみたいと思いました。
- * 普段、人と話すということをあまり何も考えずに話していましたが、きょう改めて聞く側の気持ち、話す側の気持ちを考え直さなくてはいけないところが多々ありました。子どもとの話し相手もきょうからでも変えて実行したいと思います。
- * きょうは知らない人と話して理解してもらったり、受け入れられた感じで…知らない人にもかわらずうれしかったので、これがやはり身内だったりしたら、勇気や自信にもつながるだろうと思った。批判ばかりせず、まず受け入れてみよう！と思った。
- * 育児だけの毎日で、なかなかこういったイベントに参加させていただける機会はないので、いろいろ勉強になりました。流されている日々に、一步落ち着いて考えてみることを学びました。とても楽しかったです。ありがとうございます。ただお部屋が涼しすぎて、少し寒かったです！
- * しないほうがいいことばかり子どもに対してやっていたなあーという感想を持ちました。
- * 子どもに対しての態度、改めて反省と同時に勉強になりました。初めての体験ですが、とてもよかったです。
- * 最初は何をやらされるのかと思いましたが、ワークショップをやってみて、なるほどと考えさせられました。こんなに聞き手の態度で話し手がイキイキと話を楽しんでできるもんだということに。家でも、少し自分を変えるだけで、話を聴くだけで、子どものヤル気を引き出せるんだと思いました。最後の、オヤジさんが皆に自分の夢を語られているときのうれしそうなお顔が頭に残っています。きょうはありがとうございます。
- * アンケートに記入したときから、日ごろ流されるままに生活し、子どもたちに関わってきたことに気づかされました。しつけと称して、子どもに一方的に注意したり、母親としての考えを伝えるだけで、子どもの気持ちを引き出す会話があまりなかったように思います。きょうの体験が自分を振り返るよい機会になったと思います。ありがとうございます。
- * 日ごろ、子どもが話しやすいようにということを考えて聞いていなかった自分に気がつきました。きょうからは、子どもの話を聴くときに心して聞きたいと思います。(少し遅い気もしますが…) 次のワークショップが楽しみです。
- * 話すのも聞くもの好きなので、「聞かない」ということが大変でした。子どもに対しても聞き流

しができないので、逆にイライラすることが多いです。聞き流さなければならないことも聞いてしまい、自分で怒ってしまうので、もう少し考えなければと思いました。

- * 楽しい時間でした。よくおしゃべりをしている割には、会話が成立していなかったのではと反省しました。特に子どもに対して質問ばかりで、親の都合だったこと、改めて思います。これからどう対処していくか考えます。
- * よい時間を過ごさせていただきました。今後自分の生活に生かしていきたいと思います。
- * 初めての参加で、固いテーマの学習会（講演会）をイメージしていましたが、コミュニケーションのとり方を勉強させていただきました。日ごろ、子どもの話に耳を傾けることをしていなかったことを、改めて痛感しました。とはいえ、忙しい毎日の中で、じっくり話を聞くことは難しいのが現実です。もう少しだけ聞いてあげようという意識を持つようにすることと、上手に質問することを心がけたいと思いました。正直なところ、テーマが大きすぎるので、一回の参加ではつかみきれない気がします。また違った角度から、子どもとの接し方を学べればと思います。最初の30分間、慣れるまでとてもはずかしくて、汗かいてしまいました！！
- * 初めてで、内容をまったく知らない状態での参加でした。慣れないことばかりで、約2時間緊張の連続だったように思います。初対面の方たちと楽しくお話することができたのは、普段なかなか機会があるようでないことだと思うので、とても新鮮に感じられました。まだ深いところまで思いは到ってないのですが、貴重な体験をさせていただきました。正直なところ、終わった今ホッとしています。

7.11 ワークショップに参加された皆様へ
～アンケートのお願い～

国立保健医療科学院 福島富士子

本日はご参加ありがとうございます。ワークショップが始まる前に、アンケートへの記入をお願いいたします。まずご自分のニックネームを決めてご記入ください。このニックネームは、継続ワークショップの中でずっと使用していきますので、忘れないようにしてください。また、このアンケート結果につきましては、ワークショップのプログラム評価・分析以外の用途には使用しません。プライバシーに関する情報が流出することはありませんので安心してご記入ください。

あなたのニックネーム ()
お子さんの年齢 ()

お子さん（中高生のいらっしゃる方は中高生のお子さん、小学生のお子さんの場合は一番年上のお子さん）に接するあなたご自身のことについてうかがいます。選択肢「はい」「?（どちらでもない）」「いいえ」のうち、最も近いものに○をつけてください。調査項目の関係で項目番号がとんでおりますが、そのままご回答ください。

1. 子どもは親に頼らず生きていけるくらい精神的に成長していると思う。
(はい ? いいえ)
2. 子どもが日頃何を考えているかはだいたいわかっている。
(はい ? いいえ)
3. 人生である困難を子どもは自分の力で十分克服していけると思う。
(はい ? いいえ)
4. 今でも子どもは学校のことをよく話してくれる。
(はい ? いいえ)
5. 気がついたら子どもにこごを言っていることがよくある。
(はい ? いいえ)
6. 子どものいない生活など考えられない。(はい ? いいえ)

- 9.子どもはやりたい道を自分で切り開く力を持っていると思う。
(はい ? いいえ)
- 10.最近親子の会話が少なくなって淋しい。
(はい ? いいえ)
- 11.子どもが家にいないときは何かものたりない気がする。
(はい ? いいえ)
- 12.「勉強しなさい」と言っでは、うるさがられることが多い。
(はい ? いいえ)
- 13.子どもと意見が異なる時はお互いが納得いくまで話し合う。
(はい ? いいえ)
- 15.子どもの欠点がどうしても目についてしまう。
(はい ? いいえ)
- 16.子どもは仮に悩みが生じても、自分自身で解決していきだろろうと思う。
(はい ? いいえ)
- 18.悩みがあれば、友達よりもまず自分に打ち明けてほしい。
(はい ? いいえ)
- 19.親がある程度やかましく言わなければ子どもは何もしないと思う。
(はい ? いいえ)
- 21.子どもと話をするのが好きである。(はい ? いいえ)
- 25.子どもの生活態度を注意することが多い。
(はい ? いいえ)
- 26.最近子どもの言っていることがわからなくなった。
(はい ? いいえ)

28.家での生活について、注意すれば逆効果だと思いながらつい言ってしまう。

(はい ? いいえ)

30.子どもの外出先についてはいつも把握している。

(はい ? いいえ)

35.進路のことについては、すべて子どもに任している。

(はい ? いいえ)

36.子どもは初めて経験することは私も一緒にやるように努力してきた。

(はい ? いいえ)

37.良い友達とつきあうよういつも配慮してきた。

(はい ? いいえ)

38.私は子どもの育て方を間違ったかもしれないと思う。

(はい ? いいえ)

39.子どもに問題があるのは私のせいであると思う。

(はい ? いいえ)

41.子どもが宿題などで困っていると手伝ってやりたいと思う。

(はい ? いいえ)

43.子どもに早く大人になってほしい反面、私から離れていくのが淋しい。

(はい ? いいえ)

44.大学や就職先は家から通えるところにしてほしい。

(はい ? いいえ)

47.子どもをほめることより叱ることの方が多い。

(はい ? いいえ)

49.いい本はできるだけ私が選んで与えるようにしてきた。

(はい ? いいえ)

52.子育てについて後悔することが多い。 (はい ? いいえ)

60.子どもは自分にとって大事なことを自分で決定できる。
(はい ? いいえ)

61.子どもに必要な情報は、常に私が集めてきた。
(はい ? いいえ)

62.小さい頃から子どもの勉強はずっと見てきたし、今でも分かる範囲で見てやりたい。
(はい ? いいえ)

64.子どもがいうことをきかないといらいらする。
(はい ? いいえ)

65.子どもに頼まれたことで可能なことは何でもやってきた。
(はい ? いいえ)

67.子育てのやり方で子どもにすまないと思う面がある。
(はい ? いいえ)

69.結婚しても同居か、または近くに住んでほしい。
(はい ? いいえ)

76.子どもの成長に伴い接触時間は少なくなったが、子どものことを理解できている。
(はい ? いいえ)

80.子どもといっしょにいるときが一番しあわせである。
(はい ? いいえ)

84.転勤のある大企業より地元の企業または役所に就職してほしい。
(はい ? いいえ)

86.子どもの成長に必要なものは早めに与えてきた。
(はい ? いいえ)

♪ありがとうございました♪

711 WORKSHOP 統計結果

2005年8月9日現在

	はい	?	いいえ	未回答
干渉				
5.気がついたら子どもにこごとを言っていることがよくある。	15	3	8	
12.「勉強しなさい」と言っでは、うるさがられることが多い。	9	3	13	
47.子どもをほめることより叱ることの方が多い。	13	4	9	
28.家ででの生活について、注意すれば逆効果だと思いながらつい言ってしまう。	13	4	9	1
25.子どもの生活態度を注意することが多い。	15	3	8	
15.子どもの欠点がどうしても目についてしまう。	15	3	7	
64.子どもがいうことをきかないといらいらする。	15	3	8	
19.親がある程度やかましく言わなければ子どもは何もしないと思う。	2	10	14	
合計	97			
受容				
4.今でも子どもは学校のことをよく話してくれる。	8	8	10	
2.子どもが日頃何を考えているかはだいたいわかっている。	16	6	4	
30.子どもの外出先についてはいつも把握している。	16	6	4	
76.子どもの成長に伴い接触時間は少なくなったが、子どものことを理解できている。	12	9	4	1
21.子どもと話をするのが好きである。	24	2		
13.子どもと意見が異なる時はお互いが納得いくまで話し合う。	9	8	9	
26.最近子どもの言っていることがわからなくなった。		3	22	1
10.最近親子の会話が少なくなって淋しい。	2	5	19	
	87			
分離不安				
69.結婚しても同居か、または近くに住んでほしい。	6	3	16	1
11.子どもが家にいないときは何かものたりない気がする。	10	5	11	
43.子どもに早く大人になってほしい反面、私から離れていくのが淋しい。	12	3	11	
80.子どもといっしょにいるときが一番しあわせである。	11	8	5	1
6.子どものいない生活など考えられない。	18	4	4	
44.大学や就職先は家から通えるところにしてほしい。	11	4	10	
84.転勤のある大企業より地元の企業または役所に就職してほしい。	4	7	15	2

18.悩みがあれば、友達よりも自分に打ち明けてほしい。	8	5	13	
80				
自立促進				
3.人生である困難を子どもは自分の力で十分克服していけると思う。	10	10	6	
9.子どもはやりたい道を自分で切り開く力を持っていると思う。	14	9	3	
1. 子どもは親に頼らず生きていけるくらい精神的に成長していると思う。	4	5	17	
60.子どもは自分にとって大事なことを自分で決定できる。	14	10	2	
16.子どもは仮に悩みが生じて、自分自身で解決していこうと思う。	13	11	2	
35.進路のことについては、すべて子どもに任している。	9	9	8	
64				
適応援助				
62.小さい頃から子どもの勉強はずっと見てきたし、今でも分かる範囲で見てやりたい。	10	5	11	
36.子どもは初めて経験することは私も一緒にやるように努力してきた。	6	8	12	
61.子どもに必要な情報は、常に私が集めてきた。	3	8	15	
86.子どもの成長に必要なものは早めに与えてきた。	1	8	16	
37.良い友達とつきあうよういつも配慮してきた。	2	8	15	
41.子どもが宿題などで困っていると手伝ってやりたいと思う。	12	6	7	
49.いい本はできるだけ私が選んで与えるようにしてきた。	2	6	18	
65.子どもに頼まれたことで可能なことは何でもやってきた。	9	6	10	
45				
自信				
67.子育てのやり方で子どもにすまないと思う面がある。	12	6	7	1
38.私は子どもの育て方を間違ったかもしれないと思う。	6	11	9	1
52.子育てについて後悔することが多い。	7	8	11	
39.子どもに問題があるのは私のせいであると思う。	12	9	5	

継続ワークショップ第3回(2005年12月3日)

私たちから子どもたちへ伝えていくこと 「親としての原点を振り返る」

【親としての自分をふりかえる】

- *ただただ流されている毎日の中、「これはどうなのかな」「こうしたらこうなるのかな」と考えるために立ち止まることのできた時間だったと思います。私はいつもストレートすぎて奥深く考えたりすることがあまりないのですが、たとえ話から“考える”ことの大切さを学びました。子ども達と過ごす毎日の中で、大人の感覚だけでなく、もっと子ども感覚でも物事をとらえるといろいろ見えてくることも多いのかなと感じました。学んだことを日常に活かせることが大切だと思いました。『気づき』は大切なことですね。
- *なくしたいもの、なくせるものを取り上げた時、自分の視野の狭さをすごく感じさせられました。私は自分の身の回りのわずかしが触れられず、もっと大きい目を持たなければと尾身真下。先生の、やる気、出来ると言うことを忘れずに、あきらめないということ、強く残りました。また自分が行ってきた子育てにもだぶらせ、とても考えさせられたり、振り返らされたりしたワークショップでした。母親が言ったこと、ほめられたこと、大人になっても覚えていることに気づき、今からでもほめる子育てをしたいと思います。
- *自分だけの考えでなく、いろいろな人の考えを聞くことができ、とても頭の中が動いた様な気がします。個人の考えでは、割と一方方向しか見られなくなってしまうので、いろいろな道が広がってゆく感じがしました。思いこみや偏った考えはだれもが持っていると思いますが、話し合いの大切さ、人の意見を聞く耳をこれからも持ってゆきたいと思いました。
- *今回のワークショップを終えて、あらためて自分一人ではなにもできない、ではなく、自分一人からでもできることはあるということを感じました。できることから少しでも協力できればと思います。世の中には消したい者はたくさんあるけれど、無理とは思わないようにしていきたいです。
- *個人として生活の中に見直す点が多々あり、親として姿勢を正さなければいけないと反省させられました。大きな目から見れば、個人個人が今の日本の中で忘れてるものを取り戻すことや、修復できることはたくさんあると思います。

- * 若いお母さんたちとご一緒できて大変楽しい時間を持てたことを感謝しています。今後意見交換をした内容を思いながら、子ども、孫に役立てたいと思います。
- * 自分が考えていることの他にいろいろな考えがあるんだと感じました。子ども達に対する接し方も参考になりました。きょうは時間が短く感じる楽しい時でした。
- * 一つの事例に対して人によって感じ方が本当に様々なこと、勉強になりました。自分自身は、あるひとつの考えにとらわれるとなかなか他のことに思考が働かなくなってしまうので、みなさんすばらしいし、先生のお話によって、ますます自分に対してその間を強くしました。
- * 最後にやったなくしたいもののワークショップで、改めて自分がすぐにあきらめてしまっていること＝思考が泊まってしまっていることに気づかされました。全ての物事において決して“あきらめない”ということをも自分自身に言い聞かせて、日常生活にも子育てにも向き合っていかななくては、という思いになりました。楽しみながら、いろいろなことを考えさせられ、また気づかされる時間になりました。
- * なくしたいものはたくさん挙げたのに、ひとつも消すことができませんでした。何を変えられるのか、何をなくすことができるのか、確信はありません。けれども今やっていることがほんとうに小さな一歩でも、何かを生み出したり変えたりできると、いつも自分に言い聞かせながらやっています。そうしないと、自分が注いでいる労力や時間の意味を見失いそうになることも多々あるのです。根本にあるのは、我が子への愛情です。でも今は、世の中の子ども達に起こることが、他人事とも彼岸のこととも思えないのです。
- * 自分がこれでいいかと思ってしまうことが、次の世代へバトンタッチすることはよくないと思った。まず自分の気持ちのストップをかけず、少しずつでも前や横に進んで見なくてはどう思う。ワークショップでは、まず自分の考えを言う（書く）場が最初なので、今まで気づかなかったような思いも出てきて、自分発見が出来た。次世代が少しでも良くなっていくよう、努力していきたい。
- * ワークショップに参加して思うことは、自分のことを振り返る時間ができるということです。最初に先生からお話のあった自分の自信のあるところは、自分が思うことではなく、親から言われたことであるという言葉は、とてもじわーっときてしまいました。それなりに物事に取り組んでこられたのも、そんな言葉かけの中そだってきたからなのかと思いました。あきらめないということが自分自身と子育ての中に取り入れて行ければ

と考えさせられました。今の世の中、そう思ってもできないだろうと思うことが、多いことにも改めて気づきました。考え方のちがう人間が集まって生活していく上で、日常でもある問題だと思いました。

*何事も自分が最初の一步を出さないと動いていかないことを強く感じました。世の中の人々がそれぞれ良いと思っていることを少しずつできれば、今の世の中での悪い出来事が少しずつでも改善して行ける、そして同じ考え方の人と協働してそのパワーを増大していくことが必要に思いました。

*自分が正しい、正しくないという判断をしているのは、自分の内面にある価値観でしかない、ある日気がつきました。それ以来、相手、他人の価値観にも触れていこう、常に自分の価値観が絶対ではないと、肝に銘じなければと思っています。きょうもそういう気持ちにさせて頂きました。

*社会を変えていく一步は、自分の「あきらめない」気持ちが重要であることを再確認できました。ややもするとあきらめてしまいがちな日々を、また心新たにすごそうと思います。子ども達に大人の熱い思いをきちんと伝えていけば、必ず社会が変わっていくと思えるようになりました。

*人間の関わり方で世の中が少しでも変われば良いなあという希望が見えてきました。毎日報道されている事件、いやなことばかりです。心がよくなれば、それには小さい頃からの子育てが大きな意味を持つのでしょうか。自分の子育てを振り返っても、反省することばかりです。でもこのような会に参加しないと、それも気づかずに終わってしまうので、このような機会が大切だと思いますので、是非続けてください。

分担研究者報告書

少子化対策への提言

妊娠・出産・育児における相互関係性 —生物進化の修正カオス理論的説明—

柳澤秀明(埼玉県熊谷保健所長)

はじめに

現在、少子化対策として色々な形で金銭補助を行っている。しかし、単なる金銭補助のみでは一方通行になり相互関係性に欠けるため、後に不安を増大させる可能性がある。妊娠・出産に代表される生物現象は相互関係性が最重要であり、安心の感情も相互関係性が必要条件になる。そこで、妊娠・出産・育児における相互関係性を進化・発生的に説明し、政策の方向性を提言する。

本論

1. 胎児と母体の相互関係性

妊娠中の母体と胎児の相互関係性を説明する。まず、母体から胎児への関係による胎児の変化である。遺伝的に高血圧とされる自然発症高血圧ラットの妊娠中に母体（母ラット）を降圧剤で治療すると、生まれた子ラットは高血圧の発症時期が遅くなる。この現象は人でも確認されている。これは高血圧情報が妊娠中の母体と胎児の関係性で変化することを示している。次に、胎児から母体への関係による母体の変化である。胎児と胎盤からのホルモンで母体の乳腺は活性化する。その他、母体の食欲や味覚変化も胎児からのホルモンの影響される。これらから、母体と胎児が相互関係性を継続し、お互いを変化させていることが分かる。自然発症高血圧ラットの高血圧情報は可逆的状態であり、遺伝的に高血圧とされる自然発症高血圧ラットでは、まだ遺伝子の確定情報にはなっていない。しかし、自然発症高血圧ラットを治療しなければ、次の世代はより確定的遺伝的高血圧ラットになる。高血圧情報の確定種、すなわち進化種はキリンである。キリンだけが頸部に自動血圧調節器官を持っている¹⁾。

2. 進化論と相互関係性

胎児と母体の相互関係性の継続が遺伝情報に影響する事実を踏まえて、進化論を検証する。ダーウィン進化論では「進化は突然変異で起こる」とされているが、突然変異は環境との相互関係性は無い。加えて、生存に有利な突然変異は確認されていない。すなわち、環境変化に適した時期と内容が一致する突然変異は不可能で、突然変異では変化した環境を生き抜いた生物の進化を説明できない。それに対して、環境との相互関係性で変化を示すのは生物の適応力である。適応力が生物進化の中心と考えると、度重なる環境変化を生き抜いた祖先の進化を説明可能になる。そして、ほ乳類の胎児と母体の相互関係性や、育児での子供と母親の相互関係性とも一致する。すなわち、環境変化に対する個体の学習機能

が遺伝子を変化させるわけで、遺伝子と環境の相互関係性による進化を著者は「遺伝子学習進化論」と銘々したり。

3. 発生と相互関係性

生物は先に入った情報を優先する。それは、進化過程での退化や鳥類の孵化直後での親認識が証明している。蛇の足骨跡や人の尾骨は、先に入った足や尾の情報を否定できないことの証明である。海洋生活のほ乳類はエラ呼吸には絶対になれない。鳥類は孵化直後に初めて見る動く物を親と認識する。このことから、遺伝子でも個体でも経験や教育の順序が重大な意味を持つことがわかる。経験や教育の順序が重要なことは、人の発生でも確認できる。人の受精卵は受精後8週までに、単細胞、多細胞、桑実胚、胚芽、魚類、両生類、は虫類、ほ乳類、人の進化行程を反復する。生物35億年の進化経過が順序を誤ることなく8週で必ず反復されるのだ。多細胞から直接人の形になるのではない。それだけ、生物にとっては順序が重要なのである。

図の上段が地球歴であり、下段が胎児歴（発生歴）である。地球誕生が約45億年前で、単細胞生物が約35億年前に誕生した。約10億年前頃に多細胞生物へ進化し、その中から脊椎動物が生まれた。魚類から両生類へと進化し、は虫類を経てほ乳類が誕生する。人類の誕生は数千万年前に過ぎない。この進化による変化がそのまま生物の発生変化になり、人では受精後の8週間で反復されることがわかる²⁾。

4. 科学理論と相互関係性

生物にとって重大な順序を考慮可能な科学を考える。物理学の分野では、ニュートン力学、相対性理論、量子力学までは時間の逆行を認めている。つまり、順序不考慮科学だ。唯一、カオス理論だけ順序考慮が可能で、カオス理論では順番が異なると答えも変わる。前3者は観測結果科学であり、観測時点で時間を停止させてしまう。カオス理論は予測科学だ。カオス理論以外では、経過が意味を持たず、カオス理論だけが経過の意味を説明する。それは、カオス理論の条件である「相互関係性」が経過に作用するからだ。しかし、カオス理論では「相互関係性」を意味する相関変数関係と時間を必須にしていない。計算過程で共有変数として消去されてしまうのが原因だ。この2条件が欠けると物理学的にはカオス現象にならない。条件から時間を外したカオス現象は数学に限定される。著者は、この2条件を必須にして修正カオス理論と銘々した³⁻⁴⁾。簡単には

修正カオス理論＝現代科学＋相互関係性の継続

になる。修正カオス理論から遺伝子学習進化論が生まれ、進化（適応）、発生、妊娠、出産、育児という生物現象が「相互関係性の継続」で説明可能になる。ダーウィン進化論の突然変異説では環境との相互関係性が不必要なので、すなわち経過が不必要になり、順序が無意味にされることは言うまでもない。

現代科学は観測結果科学であり、観測結果は相互関係性を示さない。観測結果を見た者によって観測結果が変化することは無い。観測した時点の結果は時間が経過しても変化しない。それ故に、客観性や反復性が担保される。「過去の状態が必ず未来と一致する」が完全再現性の意味であり、現代科学の基本思考である。実は科学者達が勝手にそう思いこんでしまったのだが、未来は過去と必ず異なる。それは、あらゆる物理現象が環境と相互関

係性を持つからだ。時間が関係しない数学ならば、完全再現性が成立する。完全再現性は反復机上試験を可能にさせるので、教育としての統一を容易にさせた。

「時間経過で変化しない」とは生物にとって死を意味する。少子化は世代的死の前兆かもしれない。現代科学思考が生物を死滅に誘導することは、前回の「相互関係性の継続を取り入れた科学教育の必要性について」で報告した⁵⁾。単に反復机上試験を行うことは、無意識に完全再現性への絶対視を洗脳し、時間経過不必要から生物的死を選択させることになりかねない。誰かが完全再現性への絶対視を否定してあげないと、世代的命が消失する。時間停止の思考では、子供という未来は思考中に存在できない。

5. 文明社会と相互関係性

現代科学思考に基づく現代文明も当然のこと、相互関係性を軽視している。その結果の一例が少子化である。そこで、「相互関係性の継続」という視点で少子化対策を考えてみる。少子化対策としての金銭補助は、必ず「相互関係性」をもたらすとは限らない。一方通行になっている可能性はないだろうか。一方通行の補助は後に強いストレスを招くことにもなりかねない。海外への援助を行う場合が良い例だろう。単純に金銭補助を行っても、後進国に喜ばれるとは限らない。技術や知識・知恵を伝えることが、後進国への最大補助ではないだろうか。技術や知恵は相互関係性で伝承される。つまり、相手を育てることが最大の援助だろう。少子化対策でも「育てる」ことを支援の中心にするべきだろう。その場合、「教える」は一方通行であり、「育てる」が相互関係になる。現代教育では科学を絶対視したために、「教える」に偏り過ぎた。危機感を抱いた少数の教育者は体験を重要視したかもしれないが、多くの教育者は反復机上試験と生物的死の関係に気づくことなく、試験点数を上げるために現代科学思考へ埋没したのが現実だろう。

6. 意識変革と相互関係性

Weber-Fechner の法則から、人の感情が刺激量と回数に比例することが導ける⁴⁾。すなわち、少子化対策として妊娠、出産や育児への意識変革には、強い刺激量か回数（時間）が必要になる。強い刺激はタレント、有名人や古い師の影響が相当するかもしれない。大金を与えることも強い刺激にはなる。しかし、1回での刺激による意識変革には熊に襲われる程の強い刺激が必要で、人にもよるが金銭授与では数百万円が必要かもしれない。マスコミが子供一人を育てるのに必要な経費を報道している。教育費（含義務教育外）の割合が大きく、生活費と合わせると2000万円前後の計算になるらしい。ちなみに、知識教育だけならば教育費と教育効果の相関をある程度期待できるが、想像力は教育費と教育効果の相関は期待できない。生前、アインシュタインは「知識は図書館にいくらでもある」と話していた。彼が知識を最重要視していなかった証で、知識はお金で集めることができても、彼の才能をお金で作ることは絶対にできない。新しい科学は未来であり、知識は過去だ。知識という過去と教育費がある程度の相関が有るので、過去型思考の現代社会ではどうしても義務教育外費が増大してしまう。

現代科学型比較思考で損得勘定したら、数百万でも若者の心を揺さぶることができないかもしれない。金銭報道では、出産・育児の喜びなど微塵も感じさせない。苦痛・苦悩を前提にしている。金銭授与の単独では親に出産・育児の喜びを与えることができないので、

生まれ出た子供にとっては不幸な結果になるだろう。しかも、その金銭授与を始めると、少子化が問題になる度に刺激量を増加させねばならないため、増額せざるを得なくなる。それに対して、回数（時間）をかけて伝える例は、家庭や学校での反復教育である。食前での子供の手洗いは、親や教師の反復教育の賜だろう。ストーカー被害での恐怖感増強や怪しい集団での洗脳方法も反復刺激だ。この手法を妊娠、出産、育児への意識改革に利用するのが安全で確実な方法だろう。具体的には若者への人的接触を頻回に行い、妊娠・出産・育児へのポジティブ（好感的）イメージを伝える。先輩やマスコミの情報から妊娠・出産・育児へのマイナスイメージによって若者は不安を抱いているのが実状だ。安心の感情は相互関係性の継続でのみ得ることができる。現代科学的不変思考は全てにおいて比較が可能と誤解するので、常に空想完全正解と現実を比較し、不安になる。育児不安として医療費、教育費という金銭面のみが注目されているが、それらに対する不安だけでは現在の少子化を説明できない。戦前から戦後直後までは、今よりも低い医療水準、極めて苦しい生活の中で多くの子供が生まれ育てられた。この事実は人の妊娠、出産、育児への意識を決める重大要素が、医療費、教育費という金銭面への不安ではないことを示している。

7. 少子化対策と相互関係性

少子化対策への秘訣は過去型現代科学教育の過ちを認識し、絶対正解が存在しないことを早期に教育することである。早いほど有効だ。絶対正解は過去で止まる思考のため、生物的・世代的死に直結する。若者へ生物の本質である「相互関係性の継続」を早期に伝えることが、間接的に子供という未来を意識させることになるはずだ。間違っても、一方通行になってはいけない。子供は未来で、親が現在、祖父母が過去である。現代科学が観測結果だけを絶対視していることから、子供（未来）が思考中に存在しないことは歴然としている。現在は一瞬であり、直ぐに過去になる。すなわち、自分（親）も過去に相当する。よって、修正カオス理論は次のようにも表現できる。

修正カオス理論＝現代科学＋相互関係性の継続

過去・現在・未来＝過去（現在）＋未来

$\bigcirc \times \triangle = \bigcirc \times + \triangle$

人間生活＝物（お金）＋心（愛）

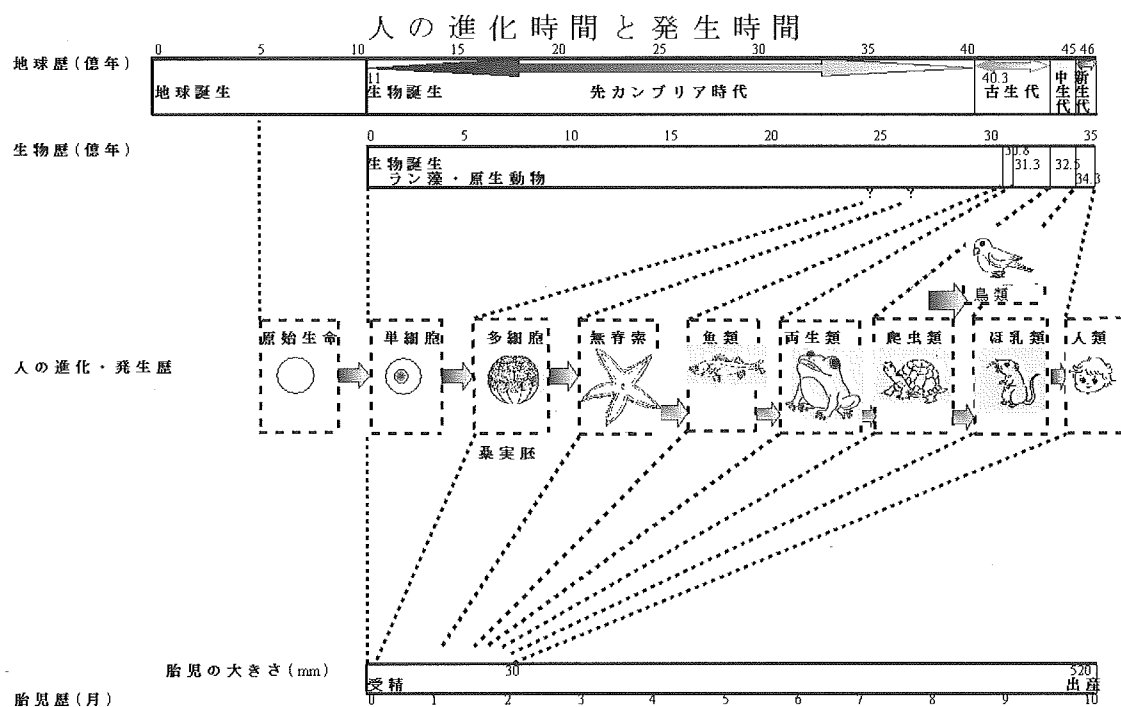
心や愛の数式理論説明は別の機会にするとして、理論的には過去型現代科学思考の伝達を修正しない限り、少子化は改善できないだろう。人の発生では、受精後の桑実胚早期に生殖細胞が最初に決まる²⁾。その時、他細胞の役目はまだ決まっていない。受精直後で既に孫になる細胞が決まるわけで、生物が子孫を重視してきたことが分かる。このことから、「少子化の原因は後天的な要素（教育）が大きい」と結論できる。1879年に天才が誕生しなかったとしても、世代的命の継続が行われれば、いつかは誰かが必ず一般相対性理論にまで到達する。「命の継続は結果として天才に勝る」ことを教育で伝えるべきだ。

結語

修正カオス理論的には「相互関係性の継続」の教育が少子化対策になるはずだ。現代科学的絶対正解の存在を否定し、幼少時期から妊娠・出産・育児へのポジティブイメージを体験や交流を介して伝えることが有効だろう。

参考文献

- 1) 柳澤秀明：心と遺伝子、桐書房、1992年
- 2) 柳澤秀明：太古の記憶：遺伝子はどのように変化してきたのか、助産雑誌、57,5,67-73:2003
- 3) 柳澤秀明：こころとコスモス、丸善プラネット、1999年
- 4) 柳澤秀明：“とき” と “ところ” の再発見、丸善プラネット、2000年
- 5) 柳澤秀明：少子化対策への提言 相互関係性の継続を取り入れた科学教育の必要性について、平成16年度厚生労働科学研究費補助金 政策科学推進研究事業報告書、26-30：2005



厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）

少子化における妊娠・出産・子育てや地域づくりに関する誌上シンポジウム

現代の子産み子育てを豊かなものに変えていくために
－関係性の構築と価値観の変容から考える－

平成 17 年度

少子化社会における妊娠・出産にかかわる政策提言に関する研究班

2006.3.6 国立保健医療科学院 会議室にて

出席者

福島富士子 国立保健医療科学院 公衆衛生看護部 室長

柳沢秀明 埼玉県熊谷保健所

尾崎米厚 鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野 助教授

高橋 恵 日本世代間交流協会事務局

待鳥美光 和光市地域子ども防犯ネット事務局

澤 麗子 早稲田大学教育学研究科修士課程

務台理恵子 首都大学東京 看護学部 非常勤講師

福島 本日は、3年間を通じた研究班での成果から得られた少子化対策へのキーワードである「関係性の構築と価値観の変容」をテーマにして、具体的な政策提言につながる座談会を行いたいと思います。急ピッチで進む少子化社会において、現代の子産み子育てを豊かなものに変えていくために、地域レベルでの支援、環境づくりの取組みの視点も含めて、ご提案をいただけることを期待しています。どうぞよろしくお願いします。

はじめに、「少子化社会における妊娠・出産にかかわる政策提言に関する研究班」の3年間の活動報告をいたします。発足のきっかけは、出産に関わる経費に関する勉強会の発足から始まります。

勉強会では、出産子育て費用を介護保険と同じようなかたちで子ども保険という方向性もありうるのではないか、という話が持ち上がりました。これは今後しっかり研究してもらう必要があるということで、平成15年に「少子化社会における妊娠・出産にかかわる政策提言に関する研究」を発足しました。母子の双方にとって出産が安全で、快適で、良い経験となり、出産施設にとって経済的にも経営的にも見合うような、そして施設と地域が継続して女性と子どもをサポートしていけるような出産ケアの可能性を検討し、政策提言をすることを目標に研究を行ったわけです。

そもそも子ども保険という話が少子化社会における妊娠・出産にかかわる政策提言に馴染むのかという話から始まりました。平成15年の研究テーマとして、以下のようなものが挙げられました。

出産を中心とした継続ケアモデル調査として、いまお産をやっている現場はどれぐらい経費がかかっているのか、助産院がどれぐらいの経費でどのようなケアを行っているか。また、地域における妊娠から産褥期の母親支援に関する検討として、地域における出産ケアモデル施設のヒアリングを行いました。少子化社会における出産施設の経営戦略、母親および支援者を対象に地域における妊娠から産褥期までの母親支援について聞き取り。少子化社会における産婦人科医院・助産院の経営戦略。出産ケアサービスと助産師の役割について経済学的視点から文献調査を行ったというのが15年です。しかし、研究をやってもすっきりしないものがある。ほんとうにお金が下がれば少子化対策になるのかこの問題は分娩費を下げるとか、子育て費用をどうするかの話ではないのではないかといいことになり、16年度は大幅に視点が変わっていきます。

16年度は発想を大きく変えて、合計特殊出生率の高い地域への多産因子に関する訪問と面接調査をメインに行いました。たくさん子どもを生んだ人へのヒアリング調査です。行政がどんな子育て支援を行っているか。宮古郡多良間村における母子保健福祉サービスのインタビュー調査。池間村を事例として地域共同に根づいた世代間交流、継承にみる多産因子の考察。それから、和光市地域子ども防犯ネットの取組みから、住民の人たちと一緒に、少子化対策をどういうふう考えていくかなどを中心に行ってきました。これらの研究を通して分析、考察した結果、私たちは「関係性の構築」に着目してきたわけです。関係性の構築という視点からいろいろなところを見ていくと、いまを読み解くいろいろな問題が分ってきます。大きなキーワードではないかと思っているわけです。これまでの出産育児を捉えなおし、育児をめぐる温かな支援づくりを考える時、以下のような取り組みが重要になってくると思われます。ライフステージとして捉えたとき、スタートである妊娠、地域とのかかわりのスタート、母子のかかわりを作る母子同室、母乳育児の推進。母と子の関わりから家族の関わりを作る新生児訪問。さらに、思春期の子どもたちへのアプローチという問題も重要になってきます。このように人と関わりのきっかけを作る行政施策の重要性。縦の関係で切り込めば世代間の交流というキーワードが出てきます。

今回、都市における実践として子産み子育てを地域で支えるモデルとして和光市を選びました。地域子ども防犯ネット事務局の待鳥さんと協力して「思春期の子どもを持つ親へのワークショップ」を3回にわたって行いました。まず、待鳥さんから、ワークショップを通して見えてきた親と子の関わりからお話いただければと思います。